

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

空間やものを共同で使用することは、現在、しだいに少なくなる傾向にある。とりわけ、家庭の中で使用されてきたものは、家族で共用するものから個人使用されるものへとデザインは変化していった。ラジオやテレビはもちろん、電話そして時としてクルマも個人使用されるものとなっている。とはいえ、テレビやラジオや電話そしてクルマにしても、当初から個人所有のものと考えられていたわけではない。

こうしたものの中では、比較的早くから個人所有のメディアとなったのは、ラジオである。一九五〇年代にトランジスタ・ラジオが商品化されて以来のことである。^①小型のトランジスタ・ラジオは、アメリカでは親たちも子どもに買い与えた。というのも、五〇年代に登場したロックンロールを、家庭のラジオで流すと親たちはやかましいと感じたからだ。ロックンロールを聞かずにトランジスタ・ラジオで自分の部屋で聞けるというわけである。つまり、家族で共有しない音楽の出現とトランジスタ・ラジオの出現は^②グウゼンにも一致していた。子どもたちは、トランジスタ・ラジオを持って歩き、そこから流れてくる音楽があれば、そこが自分の空間になった。そして、ディスクジョッキーのおしゃべりとおして、同じ世代の若者が、気分的にはつながっているという感覚を持ったのである。家族との間にはしきりができたが、ネットワークのつながりを感じたのである。これは、現在の携帯電話にちかい感覚をもたらしたといえるだろう。

テレビが家庭の中に複数持ち込まれ、個人化するのはずつと後になってからだ。少なくとも、ラジオもテレビも、家族が共有し、家族のコミュニケーションのきっかけにはなっていたはずだ。^③それが個人化することで、共通の体験は希薄化していった。

コンピュータの場合は、ラジオやテレビとは異なって、当初から個人使用にむけてデザインされたものが、家庭の中に入り込んできた。それは、当初から、情報の生産と消費が個人的なものであるという認識からデザインされたからである。^④、生産と消費は個人化されていくものだという近代の市場の流れを、一気に推し進めたといえるだろう。パソコンのデザインは、個人主義的な思想の中から生み出されたのである。【A】

消費の個人主義化は、ある意味では消費の民主化と言い換えることもできる。その結果生ずる、ものの個人所有は、所有の民主化だといえるかもしれない。また、所有の民主化は、個人をますますばらの存在にしていく。繰り返すが、ものによってしきりができるからだ。ひとつの道具を共有することは、好むと好まざるとにかかわらず、共有しているメンバーとの集団的なつながりが形成される。【B】

「平等な消費」という思考は、個人の欲望にしたがった消費を許すという事で、それは⑤主義から⑥主義への流れを強化していった。こうした傾向は、社会的な共同体だけではなく、家庭にまでおよんだ。それは、さまざまなもののデザインにおいても見ることが出来る。多くのものが、⑦で使うことよりも⑧で使用できるようなデザインになっていった。小型のラジオや電話は、^{注1}ポータブルになった結果、その使い方が変化したが、それだけではなく、使用者を⑨化したのである。

携帯電話の出現は、家を単位としていた電話の⑩ガイネンを根底から変えてしまった。電話の子機の段階では、家の電話とのつながりを持っていた。携帯は家とのつながりをしきってしまったのである。【C】

電車やバスなどの公共交通機関の中では、携帯電話の使用の禁止を呼びかけている。心臓のペースメーカーに悪い影響を与えるからと呼びかけているが、禁止についての明確な理由はあまり説得的ではないようだ。結局、多くの携帯電話使用者は、電話による会話ではなく、メールを使うようになった。⑪、携帯電話でコミュニケーションしていることには変わらない。どれほど、多くの他人に囲まれていようと、携帯電話を使った会話にしろメールにしろコミュニケーションが始まると、意識は電車やバスの中にあるのではなく、ネット空間の中に入り込んでしまう。どれほど、多くの他人に囲まれていようと、そこにいる他人とは全く異なった空間の中にしきられているのである。【D】

はたして、そのことと関連するかどうかはわからないが、携帯電話の⑫フキユウと同時代の現象としてよく見られることになったのが、電車の中で、女性がメイクアップをしている光景だ。それまでは、メイクアップは他者には見せないものであった。しかし、電車の中であって、メイクアップをする女性たちは、意識的には、⑬にいたのである。ちょうど携帯電話でコミュニケーションしていると同じように。【E】

家庭内の個人主義的傾向は、日本では一九八〇年代に^⑭ケンチヨになった。住宅のデザインは、子どもの個室を持つことが一般的になり、子どもの個室には電話や音響製品などが置かれ、^⑮ジソクしたものとなった。個室や電話や家電の^{注2}パーソナル化によって、家族の人間関係が希薄になり^{注3}。アトム化がすすんだ、という意見が語られてきた。家族が個人主義化することを、個室やパーソナル化した家電や家具類のデザインが促進したことは否定できないが、そうしたもののデザインは、集団主義から個人主義へと向かうわたしたちの近代に内包されていた傾向を反映しているのである。

『「しきり」の文化論』 柏木博

注1 ポータブル・・・持ち運びできる大きさ・重さであること。

注2 パーソナル化・・・個人用のものになること。

注3 アトム化・・・周囲の人との関係がなくなる、あるいは少なくなること。孤立化。

問一 傍線部①「小型のトランジスタ・ラジオは、アメリカでは親たちが子どもに買い与えた」について、次の問いに答えなさい。

(1) なぜ「親たち」は「トランジスタ・ラジオ」を「子どもに買い与えた」のか。その理由を、文中の言葉を使って五十文字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

(2) 「子ども」たちは「トランジスタ・ラジオ」を通して、どのような感覚を手に入れたのか。文中の言葉を使って、四十字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問二 傍線部②・⑩・⑫・⑭・⑮の片仮名を漢字に直しなさい。

問三 傍線部③「それが個人化することで、共通の体験は希薄化していった」とあるが、ラジオやテレビと同様に、あるものが個人化することで共通の体験が希薄化した具体例として当てはまらないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア これまでは家族一緒にクルマで出かけていたが、クルマを一人一台ずつ所有するようになり一緒に出かけることが減った。

イ これまでは夕食時に家族みんなでテレビを見ていたが、子どもが塾に行きだしたため一緒に見る機会が減ってしまった。

ウ これまでは固定電話に連絡が入っていたが、携帯電話に連絡が入るようになり子どもの交友関係が見えにくくなった。

エ これまでは家族でテレビゲームをしていたが、携帯型ゲーム機を使ってそれぞれ異なるゲームで遊ぶようになった。

オ これまでは家族でラジオを聞いていたが、携帯電話で各自好きなものを聞くようになり、みんなで一緒に聞かなくなった。

問四 空欄部④・⑪に当てはまる言葉を次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。(同じ記号を二回用いてはいけません。)

ん。

ア また イ たとえば ウ なぜなら エ しかし オ つまり

問五 次の文は、本文中のどこに入るか。最も適当な場所を【A】～【E】から選び、記号で答えなさい。

携帯電話の持ち主がはたして住居に住んでいるかどうかもわからない。

問六 空欄部⑤・⑥・⑦・⑧・⑨に入る言葉の組み合わせとして、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ⑤ 集団 ⑥ 個人 ⑦ 個人 ⑧ 集団 ⑨ 集団

イ ⑤ 個人 ⑥ 集団 ⑦ 個人 ⑧ 集団 ⑨ 集団

ウ ⑤ 集団 ⑥ 個人 ⑦ 集団 ⑧ 個人 ⑨ 集団

エ ⑤ 個人 ⑥ 集団 ⑦ 個人 ⑧ 集団 ⑨ 個人

オ ⑤ 集団 ⑥ 個人 ⑦ 集団 ⑧ 個人 ⑨ 個人

問七 空欄部⑬に入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 多くの他者ともを共有する空間 イ 他者との集団的つながりを得た空間

ウ 他者に対し積極的に自己主張する空間

エ 他者とはまったくしきられた空間

オ 複数の他者の存在を許容する空間

問八 本文の内容に当てはまらないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ものの個人所有によって、人と人の間にしきりができ、個々人はますますばらばらの存在になる。
- イ 子ども用の個室がある住宅デザインは、家庭内の個人主義的傾向が強まったことを表している。
- ウ ラジオやテレビやコンピュータは、当初から個人所有のものとして考えられていたわけではない。
- エ 電車内では携帯電話の使用禁止が呼びかけられているが、禁止理由にはそれほど説得力はない。
- オ 固定電話は家を単位としていたが、携帯電話は家とのつながりをしきってしまった。

このページには問題はありません

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

「ぼくたちが草野球をする時は、いつもいろんな人たちが審判をしてくれた。しかし、どの人もぼくたちが満足するような審判をしてくれたことはなかった。」

ある時、ちよつと張りきつたおばさんが審判をかつて出たことがあったが、その時はバットが当たると危ないから、キャッチャーは一メートルほど後ろに下がることになったし、打った後もバットを放り出したらやはり危ないからダメ、一塁まで持つて走りなさいというほどメチャクチャであった。だからぼくたちは、審判をかつて出てくる人には不信任を持っていて、少し判つていそうな人にこちらから頼むほうが具合がいいことを知っていた。

その若い警官に頼んだのも、おおかたそんな理由があった。その職業から、彼が特に審判に向いているという判断がぼくたちにあったわけではない。ただ彼はたぶんパトロールのついでなのでであろう。よくぼくたちの広場にやつて来た。そしてゆつくりと白い自転車を走らせて広場を一周して、①スミのポンプ小屋だとか火の見櫓やぐらのまわりなどを一応点検しているといった様子で廻まわつて、それからちよつと離れたところで自転車を止め、サドルにまたがったままぼくたちの野球を眺めるのが常であった。彼がただの②ヒマつぶしではなく、野球がさうとう好きなのだということは、時々止めた自転車の方にファール・ボールが転がったりする時によく判つた。

若い警官はそんな時、急いで自転車をおりて球を拾つてくれた。そしてさうとう③テイネイに、きちつとしたスピード・ボールを投げて返してきた。そしてそんな時は決まって④表情をした。ある時は茂みの中にまで小走りに入って球を拾い、だいぶ遠いピッチャーに真つすぐの球を投げ返したりしたので、ぼくたちはその人が出来る人だと知るようになっていた。だからぼくたちは審判を頼んだ。

その日は酒屋のおじさんもセールスマンも来ていなかったたので、ポンプ小屋の⑤トビラまわりを点検していたその警官を見つけ

て、ぼくたちのキャプテンが⑥コウシヨウした。警官は一瞬バツとうれしそうな表情をして、すぐに元の顔に戻り、それから⑦少し敵しい顔になってチラツと腕時計を見た。そしてひとつ「うん」という感じでうなずいて、いまずぐ戻ってくるからなと言いつ残して、全速力で自転車を漕いで広場を出ていった。その様子にぼくはなんとなく不安な気持ちになったが、まあ審判は決まったことだしというところで、ぼくたちは試合開始の準備にとりかかった。そしてまだ先攻後攻も決まらないうちに、警官はこれが自転車かというほどのスピードで戻って来た。彼は服装を一変させており、セーターにズボン、そして運動靴という軽装になっていた。「さあ、やろう」

と警官が広場じゅうに聞こえるような甲高い声で叫んだ時、ぼくは具体的に不安になった。

それからはまったく彼のペースであった。ストライク、ボール、アウト、セーフの判定はごく的確に、そしてワン・ダウン、ツー・ダウン、チェンジの指示もまた明確を極めた。そして回が進むにつれて警官の行動は少しずつ大胆になってきて、キャッチャーの捕球姿勢のアドバイスや、守備位置の調整の指示などが目立ってきた。打者に対しては、もつとバットを短かめに持てだとか、球をよく見るなどと言いはじめ、チェンジの間には自ら手を取って、バッティングの指導などをやるのだ。

⑧ぼくは不安が的中して、むしろ不快になっていたので、いつもなら五割近いアベレージを保っていた打撃も、ごく不調でボテボテのゴロばかりであった。だから野手がなんなくそのゴロをさばき一塁へ送球するのを横目で見ながら、塁間なかばで走るのをやめることになるのだが、警官はそれが気に食わない。打つたら全力で走れ、頭から滑り込めという具合に叱咤するのだ。いまま思えば、このように平面的美学の持ち主たちが、今の高校野球などをささえている人々であり、プロ野球のだらしなさもまた、そこに起因するのである。当たり損ねの球を打ってしまったという失敗を、塁間なかばで放棄するという行為で何とか償おうとする立体的な美学が、彼らには判らないのだ。そして、⑨そういうた美学に裏うちされたやり方を認めたりしないのだ。

ぼくはまったく不愉快であり、それ故ゴロはトンネルするし、一塁には暴投するしで、攻守ともにさんざんな成績であった。しかしゲームそのものは、警官のお陰とおうか、それなりにしまつて展開し、一点差の均衡した好ゲームになっていた。そして最終回、一点差を追うぼくたちのチームは最後の反撃にうつったわけだが、トップ・バッターのぼくはこれまた警官のお陰、いやあ

まり警官がうるさいので、ボテボテゴロでも懸命に走って一塁セーフになった。いや、ぼくだって走るべき時には走るので。その場は走るべき時であつて、それぐらいの判断は教えられなくても充分に知っているのだ。だがそれとて若い警官には判っていない。彼は塁上のぼくに向かつて、それでいいと手を振った。

ぼくが決死の盗塁を敢行したのは警官の激励があつたからでは決してなく、それがぼくにとつて、その日初めての出塁だったからである。ぼくは頭から二塁ベースへ滑り込んで、また警官が手を振った。ぼくは二盗に成功してちよつと上気していたのか、警官に手を振り返したような気がする。そして三塁へも盗塁を決めた時には、ぼくの方から先に手を振った。

ぼくはだいぶ興奮していたらしく、次のピッチャーゴロでホームを突いた。誰かが「もどれ、もどれ」と叫んだが、ぼくは全力疾走して滑り込んだ。キャッチャーのミットがぼくの横つ面を叩いた時、ぼくの手がホームベースにタッチした。そしてキャッチャーとぼくはからみ合つたまま審判の声を待つたのだが、声がない。ぼくは警官を見上げた。彼は顔面を紅潮させて「ううっ」と声をつめていた。そして⑩「瞬間をおいてから、うなるように、

「アウト！」

と言つた。キャッチャーが「やつた」と叫んで跳び起きた。誰かが「ぼつかだな、おまえ」と言つて僕の頭を叩いた。貴重な同点ランナーが無謀な走塁をしたので、ぼくたちのチームは負けた。

ホーム・プレートの両脇に選手を整列させて、両キャプテンに握手をさせるのを最後の仕事にして、警官は白い自転車に乗つて帰つていった。ぼくたちも道具をまとめてぞろぞろと広場を出た。誰かが「あれはセーフだ」とぼくの滑り込みのことを言つた。

「あのおまわりは汚え」と別の誰かが言つた。「八百長じゃねえの」とまた別の誰かが言つた。ぼくは後ろの方を黙つて歩いてい

た。ぼくはあれがアウトだということが判つていた。滑り込んだ時、いや三塁ベースを離れた時から、アウトになると思つていた。

少し調子に乗りすぎたと思つていた。それなのに判定が馬鹿に遅かつたことが、むしろ意外であつた。そしてあの警官の紅潮した顔が忘れられなかつた。そしてぼくの無謀な走塁に腹を立てていたのだと思う。そしてまた、それでもなお頭から突っ込んだぼくのプレーを好ましく思い、その混乱の前にタッチ・アウトの事実があつたのだと思う。そして一瞬遅れて「アウト」と判定を下し

たその警官は、ぼくの初めの予想に近いかたちの、出来る人に違いなかった。

『ときどきの少年』五味太郎

問一 傍線部①・②・③・⑤・⑥の片仮名を漢字に直しなさい。

問二 空欄部④に当てはまる最も適当な語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 苦しそうな イ もどかしそうな ウ 退屈そうな エ うれしそうな オ かなしそうな

問三 傍線部⑦「少し厳しい顔になってチラッと腕時計を見た」とあるが、なぜ「若い警官」は「少し厳しい顔」になったのか、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 地域との交流にもつながるから、時間を気にせず野球を楽しもうと思ったから。

イ 勤務時間中に子どもたちの野球の審判をやるということに気がとがめたから。

ウ 子どもたちの下手くそな野球の審判だけはしたくないといううんざりとしたから。

エ 野球の審判ではなくて野球の選手として依頼をしない子どもたちにいらしたから。

オ いつも仕事では退屈しているので子どもたちの仲間に入れてほしかったから。

問四 傍線部⑧「ぼくは不安的中して、むしろ不快になっていた」とあるが、なぜ「ぼく」は「不快」になっていったのか。文中の言葉を使って三十文字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問五 傍線部⑨「そういった美学に裏うちされたやり方を認めたりしない」人々は、どのような「美学」を持っているのか。文中の言葉を使って三十文字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問六 傍線部⑩「一瞬間をおいてから、うなるように『アウト!』と言った。」とあるが、このときの「若い警官」の行動を、「ぼく」はどのようにとらえたか。文中の言葉を使って七十文字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問七 次の中から、本文の内容に合うものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「ぼくたち」は警官という職業は審判に向いているはずだと判断して、パトロール中の「若い警官」に依頼をした。
- イ 「若い警官」は「ぼくたち」の草野球を眺めながらも、思い出したように細かな指示をしようとするのが常であった。
- ウ 「ぼくたち」が試合開始の準備にとりかかっている間に、広場に戻ってきた「若い警官」は服装を一変させていた。
- エ 「若い警官」は試合が始まるとすぐに、自ら手を取って「ぼくたち」にバッティングの指導などをやり出した。
- オ 「ぼくたち」のチームは、貴重な同点ランナーが無謀な走塁をしたので、相手チームにアウトを取られ負けた。
- カ 「若い警官」は判定を間違ってしまったことを責められるのが嫌で、白い自転車に乗ってそそくさと帰って行った。

このページには問題はありません

三 次の文章は『枕草子』の中の、宮廷でのある日の出来事を描いた部分である。筆者が仕えた中宮定子の乳母であった「御乳母の大輔」が定子のもとを去り、夫とともに「日向」（宮崎県）に向かつて旅立つ時の別れの様子が描かれている。後の問いに答えなさい。

（中宮様がお与えになる）

（片面には）

御乳母の大輔の、日向へくだるに、給はする扇あふぎどもの中に、片かたつ方かたには、日ひいとななやかにさし出いでて、旅人のある所、み中将のたちなど① いふさま、いとをかしうかきて、いま片きやうつ方かたには、京きやうの方かた、雨いみじう降りたるに、ながめたる人などかきたるに、

（もう片面には）

（今頃都では晴れることのない長雨に物思いにふけっているだろうと）

A あかねさす② 日に向ひても思ひ出でよ都は晴れぬながめすらむと

（い）自身の手でお書きなされたことは、

（このようなく主人様をそのままお残しして、遠くに行くことはできそうにもないことだ。）

③ ことばに御手づから書かせたまひし、④ あはれなりき。⑤ さる君を置きたてまつりて、遠くこそ行くまじけれ。

（『枕草子』九十九段）

注 ゐ中将のたち・・・「田舎の館」のこと。

問一 『枕草子』の筆者名を漢字で正しく書き、成立年代として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 七〇〇年頃 イ 八〇〇年頃 ウ 九〇〇年頃 エ 一〇〇〇年頃 オ 一一〇〇年頃

問二 中宮定子が「御乳母の大輔」に与えた扇の表と裏にはどのような絵が描かれていたのか。絵の説明にあたる部分を文中から二ヶ所抜き出して、それぞれ最初と最後の五字を書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問三 傍線部①「いふさま」②「日に向かひても」を現代仮名遣いに改めて、すべて平仮名で書きなさい。

問四 Aの和歌の表現技法について説明した次の文章の空欄に入る最も適当な言葉を漢字で書きなさい。

この歌は（ア）句切れであり、「あかねさす」は「日」の（イ）である。また「日に向かひても」は「日に向かっても」という意味と「日向」という地名との（ウ）であり、同じように「ながめ」は「長雨」と「眺め」との（ウ）である。

問五 Aの和歌に込められた心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 太陽輝く日向の地で暮らしても、時には京の都の長雨を思い出してと願う気持ち。

イ 夫とともに太陽輝く日向の地で暮らしていける御乳母の大輔の前途を羨む気持ち。

ウ 京の都から離れられない私たちを見捨てて日向に行かないでと懇願する気持ち。

エ 日向に行っても、京の都の私たちのことを忘れないでほしいと希望する気持ち。

問六 傍線部③「ことばに御手づから書かせたまひし」⑤「さる君を置きたてまつりて、遠くこそえ行くまじけれ」の主語として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 中宮定子 イ 御乳母の大輔 ウ 御乳母の大輔の夫 エ 筆者

問七 傍線部④「あはれなりき」を現代語訳しなさい。